

インタビューまとめ・労働観/生活

3班

インタビューした方について

萩原さん
(69歳/男性)

鶴見生まれ
横浜在住

香港、ドイツに
留学経験あり

インタビューピックアップ

休日の過ごし方

遊び方

幼少期

青年期

社会人

暮らし

冷蔵庫

みなとみらいの歴史

開発費

横浜駅・桜木町駅の歴史

駅移転

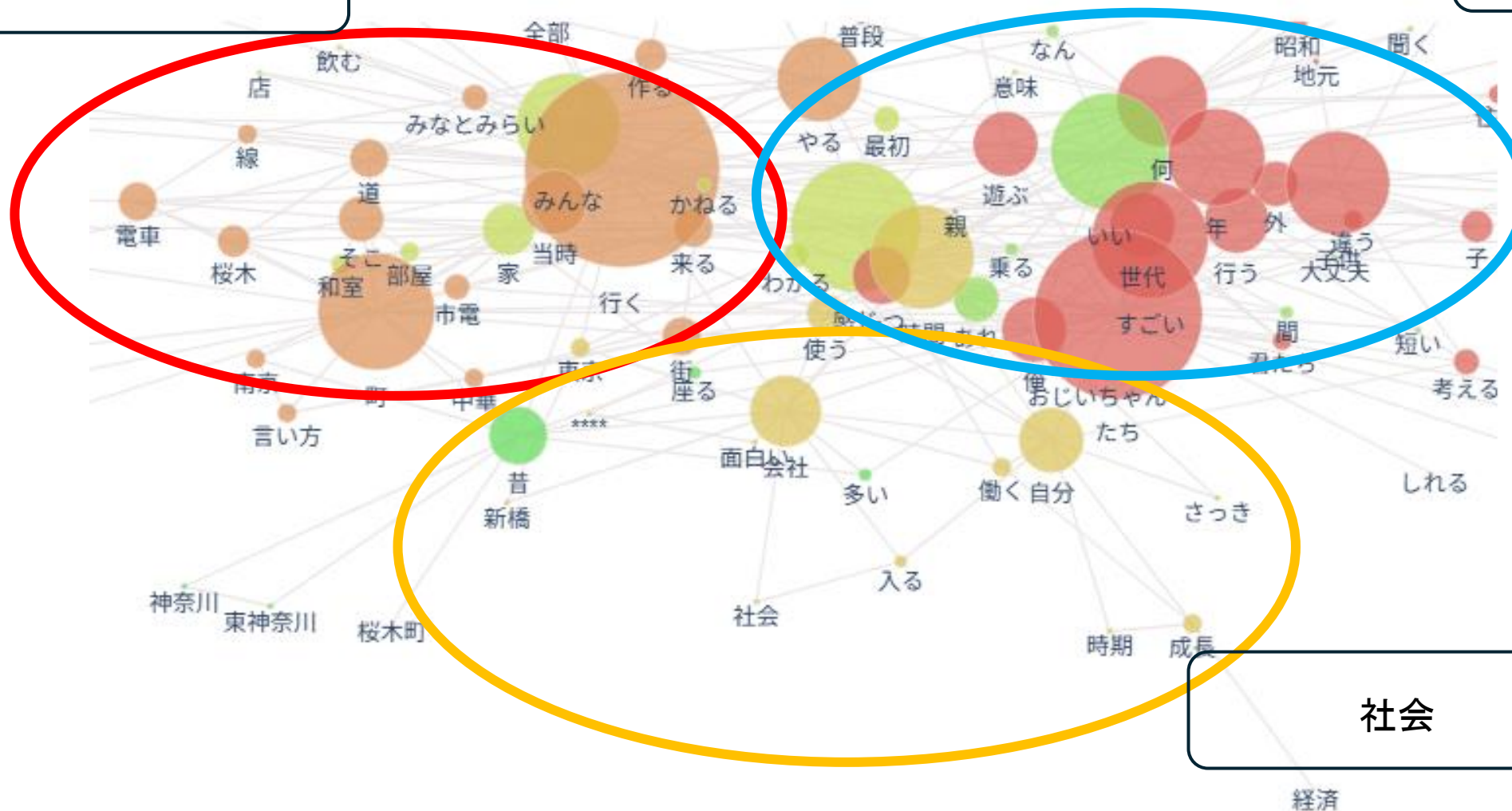
トロリーバス

働き方

共起ネットワーク

横浜・暮らし

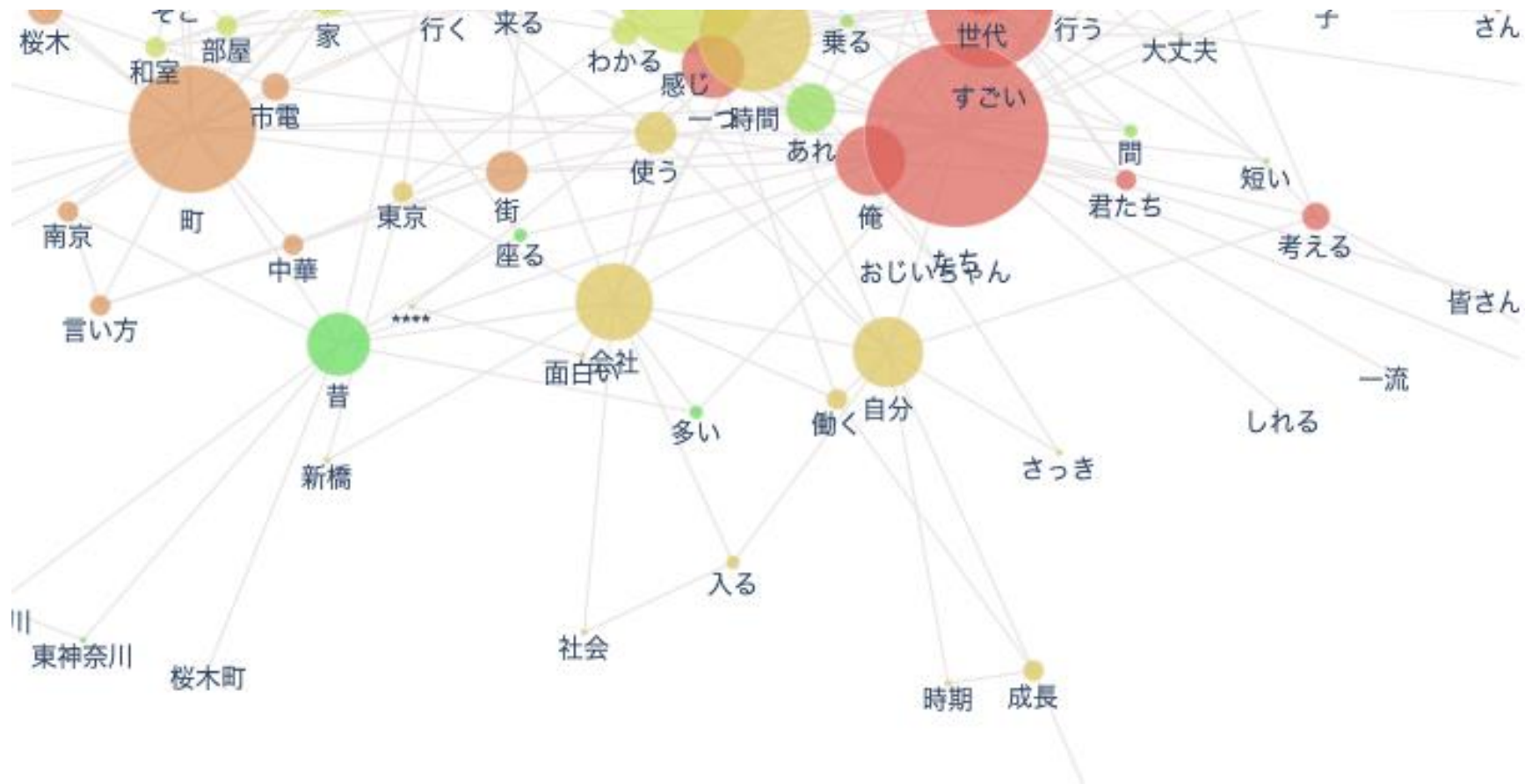
幼少期



社会

共起ネットワーク

社会



デジタルフィールドノート

- 👉08:54 横浜のイメージ
- 👉09:26 駅近のメリット
- 💡32:00 街中でロックバンドが演奏
- 💡34:04 昭和の労働状況
- 💖34:50 時代ではなく年齢が関係している
- 👉35:02 好きなことをしている時が楽しい
- 💖35:26 心残り
- 💡37:07 トヨタ坂登れない👉
- 💡38:10 自分に使う時間がなかった
- 💡38:20 労働環境
- 💖38:52 仕事が面白かった
- 👉40:45 規制は強かった
- 💡43:18 印象の強かった出来事
- ? 44:15 みなとみらいは成功した??
- ? 44:21 先生転倒👉
- 💡44:26 みなとみらい線にかかった費用
- 💡19:12 お金を稼いでから行く場所遊び場

- 💡14:02 中華街は南京町と呼ばれていた
- 💡14:10 中華街は歴史がある
- 💡14:24 港と中華街の関係
- 💡14:40 神戸中華街と対比
- 💡02:28 京浜急行 終点が桜木町
- 💡03:33 休日の過ごし方
- 💖03:41 年齢の壁がない
- 👉04:14 外遊び
- 💡04:30 買い物の習慣ない
- 💡05:25 協調性
- 💖06:43 木の冷蔵庫
- 👉08:54 横浜のイメージ
- 👉09:26 駅近のメリット
- 💡32:00 街中でロックバンドが演奏
- 💡34:04 昭和の労働状況
- 💖34:50 時代ではなく年齢が関係している

- 00:32:50
- やっぱりいろんな時代を生
- 00:32:55
- きたわけじゃないですか。昭和、平成、令和で。その中で一番おもしろかった時代っていつなのかなっていうのを感覚的に聞いてみても
- 00:33:06
- いいですか非常に無作用でない。おもしろっていうのは面白い。
- 00:33:09
- なんか実りがあったなみたいな。ちょっと広いですかね。
- 00:33:18
- えっとさ、まずは。
- 00:33:21
- やっぱりね、子供の時は貧乏だったな。それで、経済成長の時期が、もう全く自分が会社に入ってからとかいう生活にマッチしてるから、会社入ってただ働いてるだけでどんどん金持ちになる。
- 00:33:38
- 70年ぐらい。
- 00:33:39
- やっぱりさ、経済成長するしね。で、給料もどんどん上がるしさ。で、借金も増えるんだけど、でもなんだかんだ言って経済は成長してるから。
- 00:33:49
- で、そうすると、その、なんていうかな、会社自体もどんどん大きくなるし。そうするとね、なんていうのかな、正直もんがあんまり馬鹿を見ることはなかったね。
- 00:33:59
- ああ、もうなんか未来が
- 00:34:01
- うんだから、未来の展望があってから、要するにね、ええ、悪いことをしたりとかね。それからその、なんかすごいなんかね、中で大喧嘩したりとかさ、そういうのがない限り、普通にやったら普通に偉くなって、普通に給料が増えて。
- 00:34:17
- ね、普通にポジションが得られる。それは組織も大きくなったからね。自分が入社した時に、例えば50人いたとしたら、その50人は自分が15年経ったら、その時にはもう入社するのが150人ぐらいになってると。3倍の組織になってるじゃない。そうすると、その50人はみんな部長になれるよなみたいなね、そういう感じだったんだよ。
- 00:34:38
- だからそういうのをね、いいなと思うかどうかっていうことだった。で、当時暮らしてた身からすると、それが当たり前だと思ってたからっていうのもあって。で、楽しいとかそういう意味で言ったらね、結構ね、今ね、俺69なって、もうもう会社もね、特に辞めてで、何も今ね、お金もらうことはしてない。
- 00:35:01
- ただ、自分の好きなものに時間を使って、さっきの横浜の研究とかね。だからその、まあ歴史のことを調べたりとか。あとだから僕は落語が好きで。落語、うん、落語家をね、結構追っかけですね。あちこちね、あの東京とかも回ったりとか、そんなことをしてる今は割に充実して楽しいっていうのはある。
- 00:35:24

- 00:38:02
- そうそうで俺は結構ねそのいい波に乗っちゃったなっていう感じはあるのとそれからその時にただすごくやっぱり一つあるのは時間もなかったよね自分にそう自分に使う時間ってなかったよもう本当に朝からまんまで働いてた
- 00:38:18
- よあれですか24時
- 00:38:20
- 間働いてたんですかあのねあの僕らがね結構ね会社でもう徹夜なんか当たり前のようにしてたし
- 00:38:27
- それで朝ね、その東京駅のね、そばのサウナあって、東京温泉ってあったんだよ。昔でそこ行ってね、もうサウナ浴びて、で、もう仮眠して、で、8時にはまた会社行って仕事してみたいなね。で、その時に残業をいくらつけるかとかね。そんなのなんかも適当に労働組合と協定とかそういうのあるからさ。
- 00:38:50
- もう全部サービス残業が当たり前。でもね、面白かったよ。面白い、面白かった。あの、非常にね、エキサイティングだったっていうのは、やっぱりまあ当時はね、その商社で僕は貿易の仕事してたから、そうすると、そのもう24時間どこでもどっかで誰か活動してるやつとさ、やればそれだけ儲かるわけみたいな。
- 00:39:12
- 世界中何年相手にするとなると、もう夜でもなんでもって感じ。そうそうそうそう。
- 00:39:19
- だからその商品を例えばね、一つ俺にやらせてくれとゆって、課長がいいって言ったんですよ。そう、俺はもうさ、そういう売り放題で売りだった。で、今みたいに日本ね、今だったら家からできるじゃん。あれがね、ないんだよ、当時は。ああ、なるほど。当時はさ、会社がのファシリティを使わないと、そういう活動はできないから、そうすると会社にいるしかないから。だから会社にずっと24時間働けますかみたいに言って、面白かったよね。だからその時なんかは面白かった。
- 00:39:49
- そういう働き方だった。
- 00:39:51
- 働き方って、働いてるって感じよりは、もう本当にね、あのゲーム感覚だよなあ
- 00:39:57
- 、責任を持って。
- 00:39:58
- うん、そうそう。だから報酬を得るために働いてるっていうようなイメージはもう全くないよね。うん、だからもう本当売れたら嬉しい思うけたじゃん。面白いね。だから新しいなんかスキームを考えてね、できたらこんなんでもよかったじゃんみたいな。
- 00:40:17

インタビューで得た発見(38:10-41:00)

1

萩原さん（高度経済成長期）は社会に対して現代とは違う労働観・社会観を持っていた？

2

具体的には身を粉にしても働き続けられる感覚、それを苦痛としない感覚。

3

当時の日本経済はそれに見合う価値を個人に還元していたから？